

日本経済における自動車産業の位置

わが国の自動車産業は日本の基幹産業として日本経済を長くリードしてきた。そもそも自動車は2万から3万にも及ぶ部品から成っており、自動車メーカーも1社で車の全てを作っているわけではない。約7割もの部品は外注加工やタイヤ・バッテリーなどの完成部品の購入といった形で調達されている。また資材の供給や自動車を利用した運送業など、間接的に自動車に関わっている事業も多岐にわたる。自動車産業が日本の基幹産業であり続けたのは、この裾野の広さゆえ、といえるだろう。

自動車に関わる就業人口

海外への生産拠点の移動や、不景気の長期化によるラインの統合などで1998年から就業人口は減少を続けてはいるが、直接・間接的に自動車に関わる就業人口は2001年の時点で708万人と全就業人口(6440万人)の11%を占めている。

図：自動車関連産業と就業人口

